

下水道の见えない真実を探ってみるっぺ！

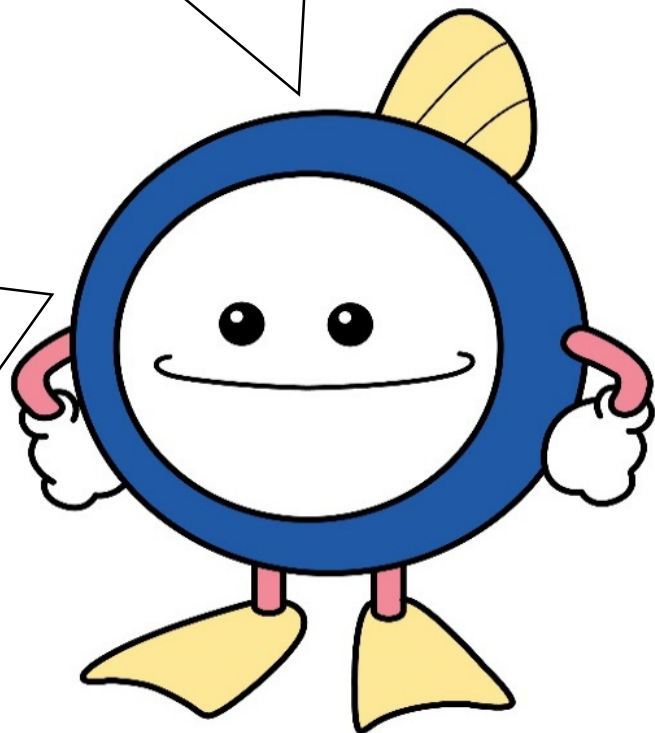
(令和4年度 館山市下水道事業の決算編)

このシリーズでは館山市下水道事業の见えにくい真実について探っていくよ！

今回は令和4年度の館山市下水道事業の決算を例に「スイスイ」が内容や問題点を分かりやすく説明するよ！

公営企業は「六つの原則」に従って行っているよ！

- ・ 真実性の原則
- ・ 正規の簿記の原則
- ・ 資本取引と損益取引との区別の原則
- ・ 明瞭性の原則
- ・ 継続性の原則
- ・ 保守性の原則



下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

館山市都市計画課下水道室

目 次

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1 決算ってなあに？ | P1 |
| ○決算って？ | |
| ○令和4年度の決算はどうだったの？ | |
| 2 家計簿にたとえると | P5 |
| ○収入ってどんなものがあるの？ | |
| ○お金はどんなことに使っているの？ | |
| コラム① 地方公営企業会計ってなあに？ | P10 |
| 3 私たちが支払った使用料は何に使われているの？ | P13 |
| 4 汚水をきれいにするのにどれくらいかかるの？ | P14 |
| コラム② 下水道ってどこで使えるの？ | P15 |



みんなで一緒に
下水道の決算や下
水道事業の内容に
ついて見ていこ
う！

1.決算ってなあに？

○決算って？

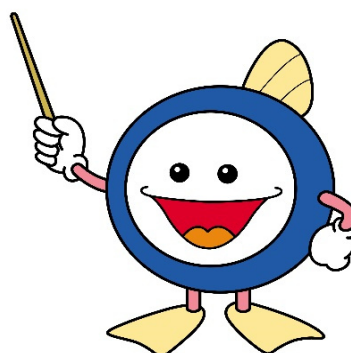


決算とは、1年間に入ってきたお金(収入)と出ていったお金(支出)を計算し、利益や損失をまとめた数字を「決算書」として確定させることです。

みんなで一緒に令和4年度の1年間に館山市の下水道事業に使われたお金の出入りを見てみよう！

○令和4年度の決算はどうだったの？

さっそく、令和4年度の館山市下水道事業を見てみよう。



収益的収支

【収入】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
営業収益	110,137,875	下水道使用料、他会計負担金 など
営業外収益	403,692,076	他会計補助金、長期前受金戻入 など
特別利益	389,800	過年度総益修正益 など
収入合計	514,219,751	

【支出】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
営業費用	421,627,927	人件費、委託料、減価償却費 など
営業外費用	59,981,431	支払利息 など
特別損失	0	過年度損益修正損 など
支出合計	481,609,358	
収支差引額	32,610,393	

資本的収支

【収入】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
企業債	317,500,000	建設改良事業に伴う借入金
国庫補助金	41,350,000	建設改良事業に伴う国庫補助金
その他	81,766,400	他会計補助金 など
収入合計	440,616,400	

【支出】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
建設改良費	114,754,527	人件費、工事請負費、委託料 など
償還金	446,034,565	企業債償還金
支出合計	560,789,092	
収支差引額	△ 120,172,692	



令和4年度の下水道事業の決算は、日々の経済活動に必要なお金(収益的収支)を見ると、約5億1千万円の収入対して約4億8千万円の支出があったよ。

一方、施設を建設したり、借金を返済したりするお金(資本的収支)は約4億4千万円の収入に対して、約5億6千万円の支出があったよ。不足している約1億2千万円については、収益的収支の利益や留保しているお金を取り崩したりしてやりくりしたんだよ。

【用語説明】

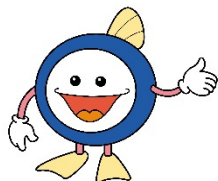
収益的収支	維持管理に係るお金 詳細はP3をご覧ください
資本的収支	建設投資に係るお金 詳細はP3をご覧ください
他会計負担金	雨水からみんなの財産を守るために一般会計(税金)からもらうお金
他会計補助金	汚水事業を行うための整備費用等で、下水道使用料で賄いきれない部分を一般会計(税金)からもらうお金
長期前受金戻入	詳細はP4をご覧ください。
企業債	新しくポンプ場や下水管を建設するために借りるお金
国庫補助金	新しくポンプ場や下水管を建設するために国からもらうお金

収益的収支・資本的収支ってなあ～に？

P1、P2の様に企業会計では、予算の編成は「収益的収支」と「資本的収支」の2本立てとなっているんだよ。

収益的収支・・・公営企業の1事業年度の経済活動に発生したすべての収入とそれに対応する全ての支出

資本的収支・・・公営企業の将来の経済活動に備えて行う建設改良費及び建設改良に係る企業債償還金などの支出、並びにその財源となる収入



みんなが分かりやすいイメージでいうと、収益的収支は、「現在のために使うお金」で、資本的収支は、「将来のために使うお金」だよ。もう少し具体的に見てみよう。

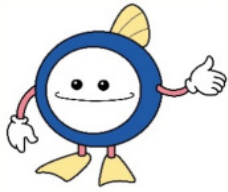
・現在のために使うお金＝収益的収支

みんなが使った汚水を下水処理施設で処理するのは、今、生活している人々のためにすることだよ。そう考えると、維持管理や1年間施設を使った事による資産価値の減少分である減価償却費、それから下水処理の対価である使用料収入などは「現在のために使うお金＝収益的収支」というイメージになるね。

・将来のために使うお金＝資本的収支

ここで言う「将来」とは、1、2年後の「すぐ先」から、みんなの子供・孫の世代の「ずっと先」まで示しているんだ。この将来のために使うお金とは、例えば下水道管の敷設や処理場施設の建設のことだよ。一度整備された施設は、その後何十年と使用されることから、これらの整備費用やその財源となるために借りた企業債収入やその償還金、国からの補助金が「将来のために使うお金＝資本的収支」というイメージになるよね。

長期前受金戻ってなあ〜に？



平成26年度の地方公営企業の会計基準の見直しに伴って、新たにできた収入の項目だよ。
 固定資産の取得に伴う財源として受けた国庫補助金や一般会計からの負担金について、「長期前受金」として負債に計上したうえで、毎年度、減価償却見合い分を収益化する現金を伴わない収入なんだよ。

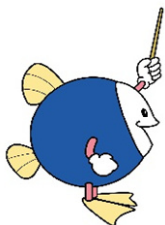
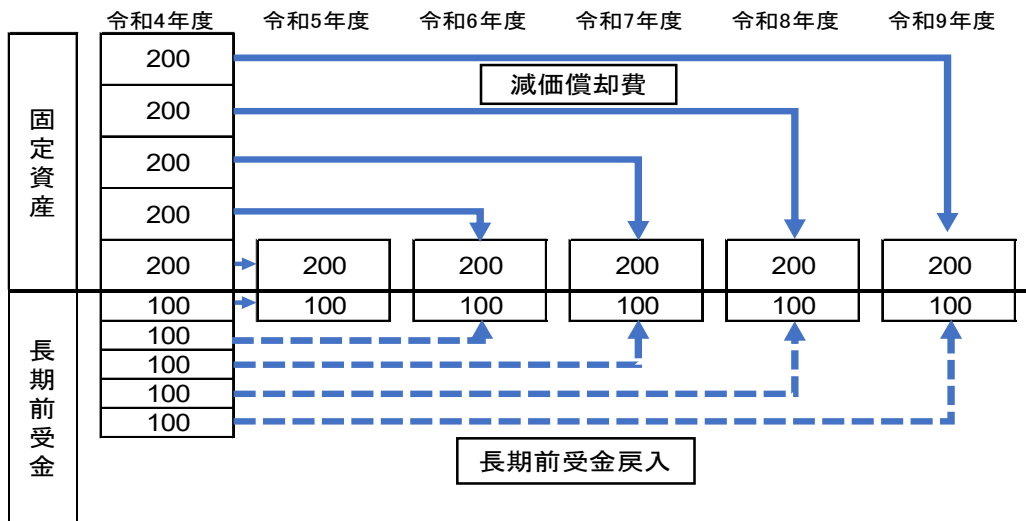


う〜ん、言葉で聞いてもよくわからないなあ？

そうだね。言葉を聞いてもイメージしにくいね。じゃあ、具体的な例を挙げてイメージしてみよう。



(例)令和4年度に国庫補助金500万円、内部留保資金500万円を財源に1000万円の施設の建設工事(耐用年数5年、残存価格0とする)を行った場合



この例でいうと、この施設は耐用年数が5年だから、毎年5分の1ずつ資産の価値が減少するとみなし、その価値の減少分である減価償却費が毎年200万円発生し費用計上することになるよ。

一方、平成26年度の会計基準の見直しによって、資産取得の財源である国庫補助金についても、減価償却費に対して、毎年5分の1の100万円ずつ収益化することになるんだ。

この経理処理に伴って発生する収益を長期前受金戻入というんだよ。

2.家計簿にたとえると

○収入ってどんなものがあるの？

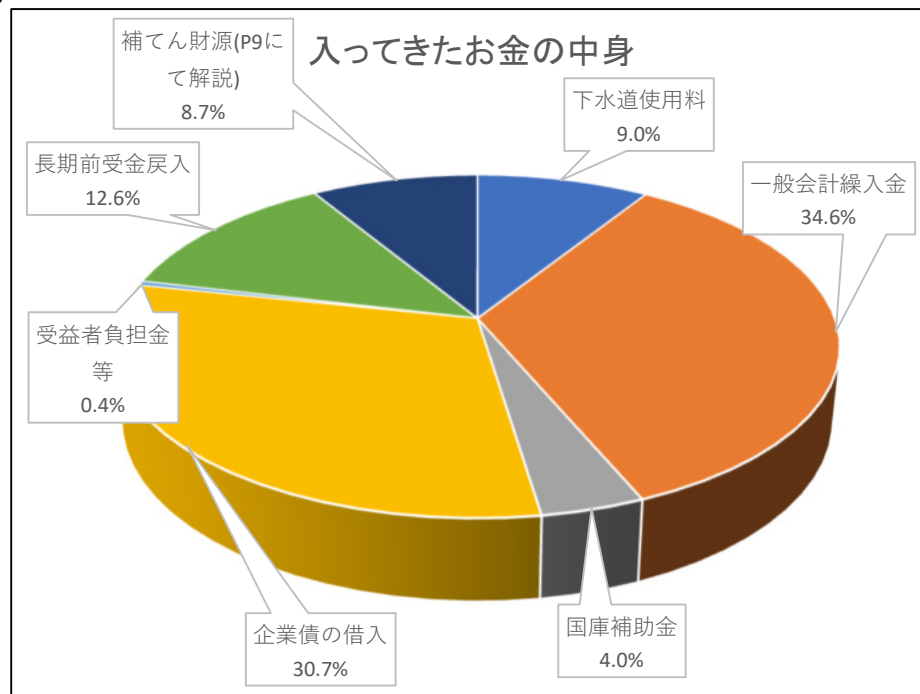
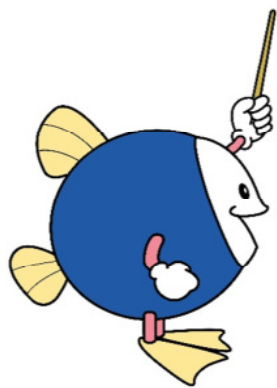
令和4年度の下水道事業のうち、まずは入ってきたお金(収入)を見て見ましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)
下水道使用料	92,440,055	9.0%
一般会計繰入金	357,821,000	34.6%
国庫補助金	41,350,000	4.0%
企業債の借入	317,500,000	30.7%
受益者負担金 等	4,369,758	0.4%
長期前受金戻入	130,194,688	12.6%
補てん財源(P9にて解説)	89,427,269	8.7%
合 計	1,033,102,770	100.0%

下水道事業は、みんなが納めている下水道使用料を主な収入源として経営することになっているんだ。ところが入ってきたお金のうち、下水道使用料は約10分の1しかないね。

他の収入を見てみると、国からの補助金や館山市の一般会計からの繰入金(税金)などいろいろな種類の収入があるんだね。

次のページで、みんながイメージしやすいように、おうちの家計簿に例えてみよう！



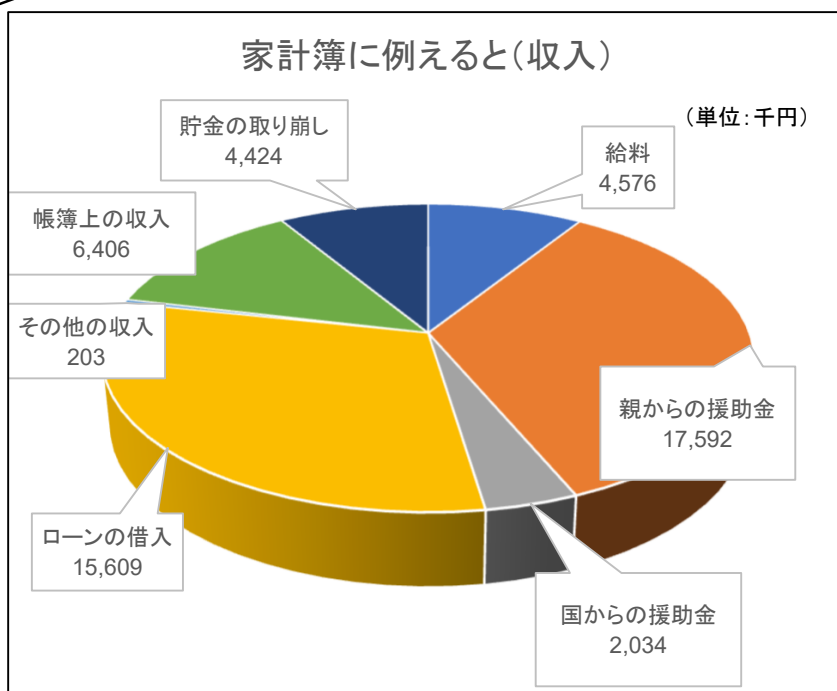
前のページで見た1年間に入ってきたお金を1年間の家計簿に置き換えてみましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)	
給料 (下水道使用料)	4,576,000	9.0%	
親からの援助金 (一般会計繰入金)	17,592,178	34.6%	
国からの援助金 (国庫補助金)	2,033,778	4.0%	
ローンの借入 (企業債の借入)	15,609,244	30.7%	
その他の収入 (受益者負担金 等)	203,378	0.4%	
	(帳簿上の収入:長期前受金戻入)	6,406,400	12.6%
貯金の取り崩し (補てん財源)	4,423,467	8.7%	
合 計	50,844,444	100.0%	

※国税庁の令和4年度民間給与実態統計調査を参考(平均給与額4,576千円)を給料とし、その割合から合計を求めた後、残りを割合で按分して算定。

本当は出ていく分のお金は、自分の給料でやりくりするのが理想なんだけど、親からの援助やローンの借入、貯金の取り崩しに頼っているのが現状なんだね。

これは、下水道管を敷いたり、処理施設を作ったりするのに、たくさんのお金を出して投資していることや雨水の処理に係るお金は親からの援助や国からの援助で行っていることが理由なんだよ。



○お金はどんなことに使っているの？

入ってくるお金(収入)の内容を見たところで、次はどんなことにお金を使っているか(支出)を見てみましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)
維持管理費	172,209,797	16.7%
建設改良費	114,757,527	11.1%
減価償却費等(P9で解説)	240,119,450	23.2%
企業債の償還・支払利息	506,015,996	49.0%
合 計	1,033,102,770	100.0%

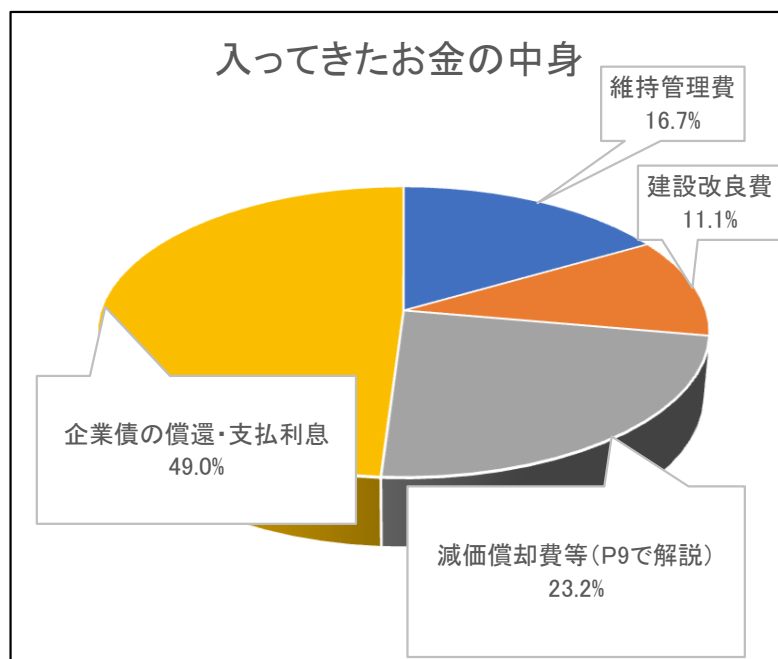
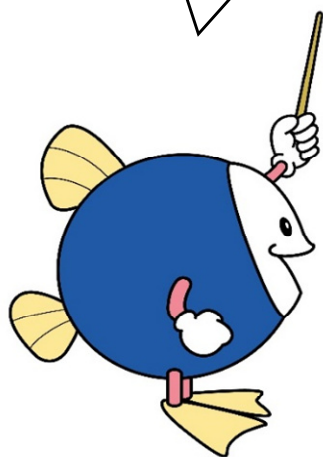


あれ？P5の実収入額の合計が「943,675,501」に対して実支出額の合計が「978,192,234」だから支出の方が多くて赤字になるね。
大丈夫なのかな？

確かに会計上では厳密にいうと赤字ってことになるけど、収入額の長期前受金と支出額の減価償却費が非現金支出(現金の移動を伴わず、会計の数値上のみの収支)のため、実際の現金はギリギリではあるものの黒字の状態なんだ。詳しくはP9の補てん財源で解説しているよ。

その他にも「建設改良費」「減価償却費等」「企業債の償還・支払利息」で使ったお金の88%を占めていることがわかるね。これらのお金は、下水道管やポンプ場・処理場施設などのハード面の建設費用にかかるお金なんだ。たくさんのお金が使われているね。

でも、なんだか難しそうなお言葉ばかりでイメージしづらいね。それぞれの支出がどういふものなのか、また、おうちの家計簿に例えてみよう。

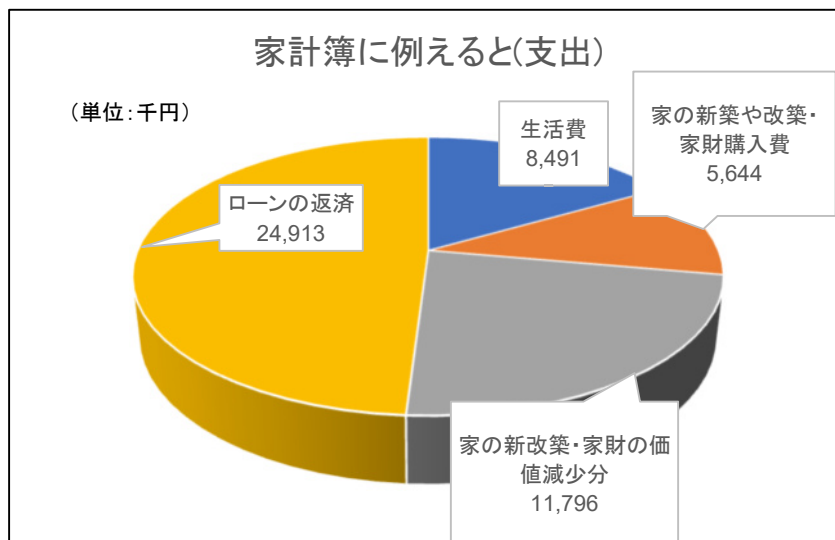


前のページで見た1年間で出ていったお金を1年間の家計簿に置き換えてみましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)
生活費 (維持管理費)	8,491,022	16.7%
家の新築や改築・家財購入費 (建設改良費)	5,643,733	11.1%
家の新改築・家財の価値減少分 (減価償却費等)	11,795,911	23.2%
ローンの返済 (企業債の償還・支払利息等)	24,913,778	49.0%
合 計	50,844,444	100.0%

※収入の家計簿合計額50,844,444円を割合で按分することで算定。

「ローンの返済」が半分以上を占めているね。これは今までに下水道管を敷いたり、施設を建てたりした時に借りたお金を毎年返済しているものなんだよ。こういった施設を建てるにはたくさんのお金が必要になるんだけど、一度、建ててしまえば数十年に渡って使うことができるよね。それなのに建てたお金を当時の人たちだけで負担するのは不公平だよ。だから何年もかけて返済することで、不公平にならないようにしているんだよ。



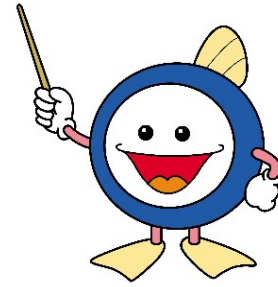
補てん財源ってなあ～に？

補てん財源とは、資本的収支予算において、収入額が支出額に対して不足することになった場合に、その不足分を補う財源のことだよ。

公営企業の予算制度は、収益的収支と資本的収支の2本立てなのはP3で説明したよね。そのうち、資本的収支予算は、建設改良費や企業債の償還が主な支出であり、支出が収入を上回ることが多くあるんだ。

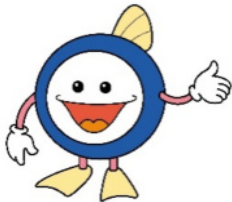
しかし、実際に予算を執行する時に資金が不足しないように、予算を作成する段階にその不足額について、資金的に賄うことができると説明する必要があるんだ。

この財源は、収益的収支予算のうち、現金の支出を伴っていない減価償却費の支出によって内部に残る資金(内部留保資金)や残りを一般会計からの基準外繰入金によって発生した純利益を館山市下水道会計では充てているよ。



減価償却費や固定除却費などの支出は、資産価値の減少分等を費用として計上しているもので、実際にお金は支出していないから、建設改良費や企業債の償還の財源として使うことができるってことだね。

減価償却費ってなあ～に？



減価償却費とは、時間がたつことによる建物や設備などの資産の価値が減少した分の費用を計上するものだよ。

みんなが分かりやすいイメージで言うと、100万円で買った新車を5年後に売る時には、買った時の値段では売れなくて、経年して価値が落ちた分を引いた価格になるよね。

こういった資産の現在の価値を正確に把握するためにも、価値が減少した分を費用として計上する必要があるんだ。この手続きを「減価償却」と呼び、その手続きによって計上される費用を「減価償却費」と言うんだよ。

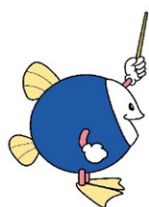


例えば、100万円で購入した車が1年後に90万円の価値になった場合、その1年間の減価償却費は価値が減少した10万円になるってことだね。



下水道事業は、市役所が行っている会計(官庁会計)と違って、地方公営企業法を適用した地方公営企業になっているよ。
・この地方公営企業って何だろう？
・市役所が行っている会計との違いは何だろう？
・どんなメリットがあるんだろう？
「地方公営企業会計のなあに」についてスイスイが説明するよ。

Q1 地方公営企業ってなあに？

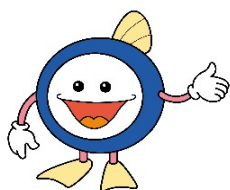


地方公共団体は、消防、教育、福祉等の一般的な行政活動だけでなく、水の供給、公共交通機関の整備、医療の提供等の住民活動や地域の発展に不可欠なサービスを提供する様々な事業活動を行っているんだよ。

こうした一般的な行政活動以外の事業を行うために、地方公共団体が経営する企業活動を総称して「地方公営企業」と言うよ。

Q2 地方公営企業の特徴ってなあに？

地方公営企業法第3条で、次のとおり謳われているよ。

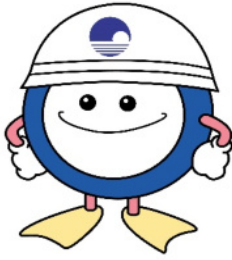


第3条

地方公営企業は、常に**経済性**を発揮するとともに、その本来の目的である**公共の福祉**を増進するように運営されなければならない。

ここでは「合理的・能率的に経営を行う。」という意味の「経済性」及び、「住民の福祉の増進を目的として経営を行う。」という意味の「公共の福祉」という2つのキーワードが地方公営企業の特徴なんだよ。

Q3 「経済性」と「公共の福祉」の関係性はどうかの？



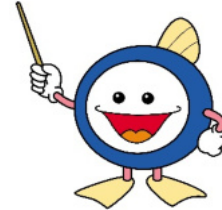
企業の経済性と公共の福祉は、矛盾する関係ではなくて、むしろ、企業の経済性を発揮し、健全な経営体質を維持することが、より良い市民サービスの提供につながるんだよ。

企業の経済性
(健全な経営体質の維持)



公共の福祉
(より良い市民サービスの提供)

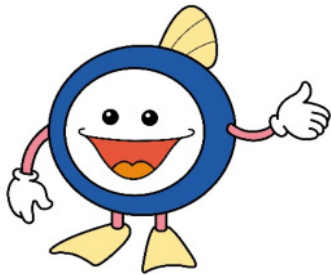
Q4 公営企業会計と官公庁会計の違いはななに？



企業会計と官公庁会計には次のような違いがあるんだよ。

	官公庁会計	公営企業会計
会計処理の考え方	現金主義 ・現金の収入及び支出の事実に基づいて経理記帳 ・例えば、当年度の現金支出がそのまま当年度の費用となるため、正しい期間損益計算が不可能	発生主義 ・現金収入及び支出の有無に関わらず経済活動の発生という事実に基づきその発生の都度、記録・整理 ・例えば、減価償却費や引当金などの現金を伴わないものも、毎事業年度に計上することで、適切な機関損益計算が可能
	単式簿記 ・貨幣・財産等の変動の一面のみを記録	複式簿記 ・ある経済価値の増加と、他の経済価値の減少という二つの側面に注目し、変動を記録
予算・決算管理	・歳入・歳出区分のみでの予算・決算管理 ・出納整理期間あり	・収益的収支(3条)、資本的収支(4条)に区分して予算・決算管理 ・出納整理期間なし ・貸借対照表や損益計算書の予算・決算資料が必要

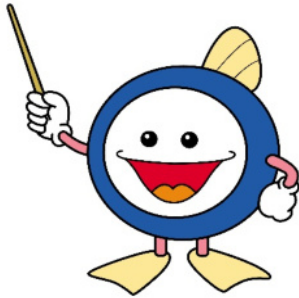
Q5 企業会計のメリットってなあに？



① 経営状況の明確化

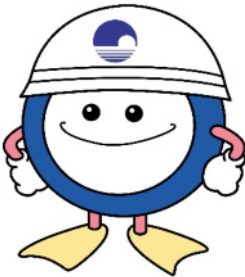
発生主義、複式簿記で会計処理を行うことにより、1年間の現金の出入りだけでなく、「資産」や「負債」などの現金の出入りが伴わないものも含めて管理するよ。

そのため従来の官公庁会計で見えづらかった「1年間における経営成績が黒字なのか赤字なのか」などの経営状況を把握し分析することができるようになるんだよ。



② 使用料の適正化

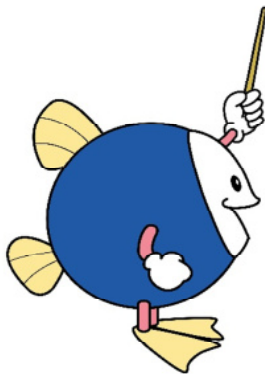
公営企業では、使用料を決めるのに官公庁会計にはない減価償却費などを含めて算定しているんだ。これによって、期間年度ごとに発生する費用とその対価である使用料収益のバランスが適正であることかを客観的に分かりやすく市民に説明することができるようになるんだよ。



③ 経営の自由度向上による経営の効率化とサービスの向上

企業会計は、業務量が増加することによって、収益が増加する場合は、予算の弾力的な運用が認められているんだ。また資産の取得や処分等についても、議会の議決を要しないんだよ。

これは経営の自由度が増すことによって、市民のニーズへの迅速な対応が可能となり、経営の効率化とサービスが向上されるからなんだよ。



④ 適切な財産把握

減価償却の考え方を導入していることで、資産の老朽化の状態を正確に把握することができるんだ。更に更新費用の正確な試算もできるようになるんだよ。

⑤ 職員の経営意識の向上

減価償却費を含めたコストとそれに対する収益、資産と負債の最適化を意識することで、最小の経費で最大の効果の発揮を図る、経営意識を持った人材の育成が期待されるんだよ。

3. 私たちが支払った使用料は何に使われているの？

汚水1m³あたりの下水道使用料の金額

$$\begin{aligned} \text{使用料単価} &= \frac{\text{使用料収入 (令和4年度年間使用料収入)}}{\text{有収水量(m}^3\text{) (令和4年度の収入の基礎となった処理水量)}} \\ &= \frac{92,440,000\text{円}}{563,459\text{m}^3} \\ &= \boxed{164.06\text{円}} \quad \leftarrow \text{【1m}^3\text{あたり】} \end{aligned}$$

館山市は、みんなが支払ってくれた下水道使用料を汚水処理施設（鏡ヶ浦クリーンセンター）の維持管理費に使っています。
次のページで説明するよ！



4.汚水をきれいにするのにどれくらいかかるの？

汚水1㎡あたりの処理費用

$$\begin{aligned}
 \text{汚水処理原価} &= \frac{\text{汚水処理費 (令和4年度に汚水を処理する際にかかった費用)}}{\text{有収水量(㎡) (令和4年度の収入の基礎となった処理水量)}} \\
 &= \frac{168,320,000\text{円}}{563,459\text{㎡}} \\
 &= \boxed{298.73\text{円}} \quad \leftarrow \text{【汚水1㎡を処理する費用】}
 \end{aligned}$$

← 維持管理費 →	
維持管理費(鏡ヶ浦クリーンセンター) 72.5%	一般事務費 8.8% 職員給与費 18.7%
使用料収入 54.9%	一般会計繰入金(基準外) 45.1%

維持管理費

下水道管や処理場施設などの運転管理や保守点検などに係る費用のことです。

一般会計繰入金(基準外)

使用料で賄うべき経費を一般会計(税金)で補っています。

汚水1㎡をきれいにするのに298.73円かかっているのに、みんなからもらっている下水道使用料は164.06円だから、処理する費用を賄っていないね。

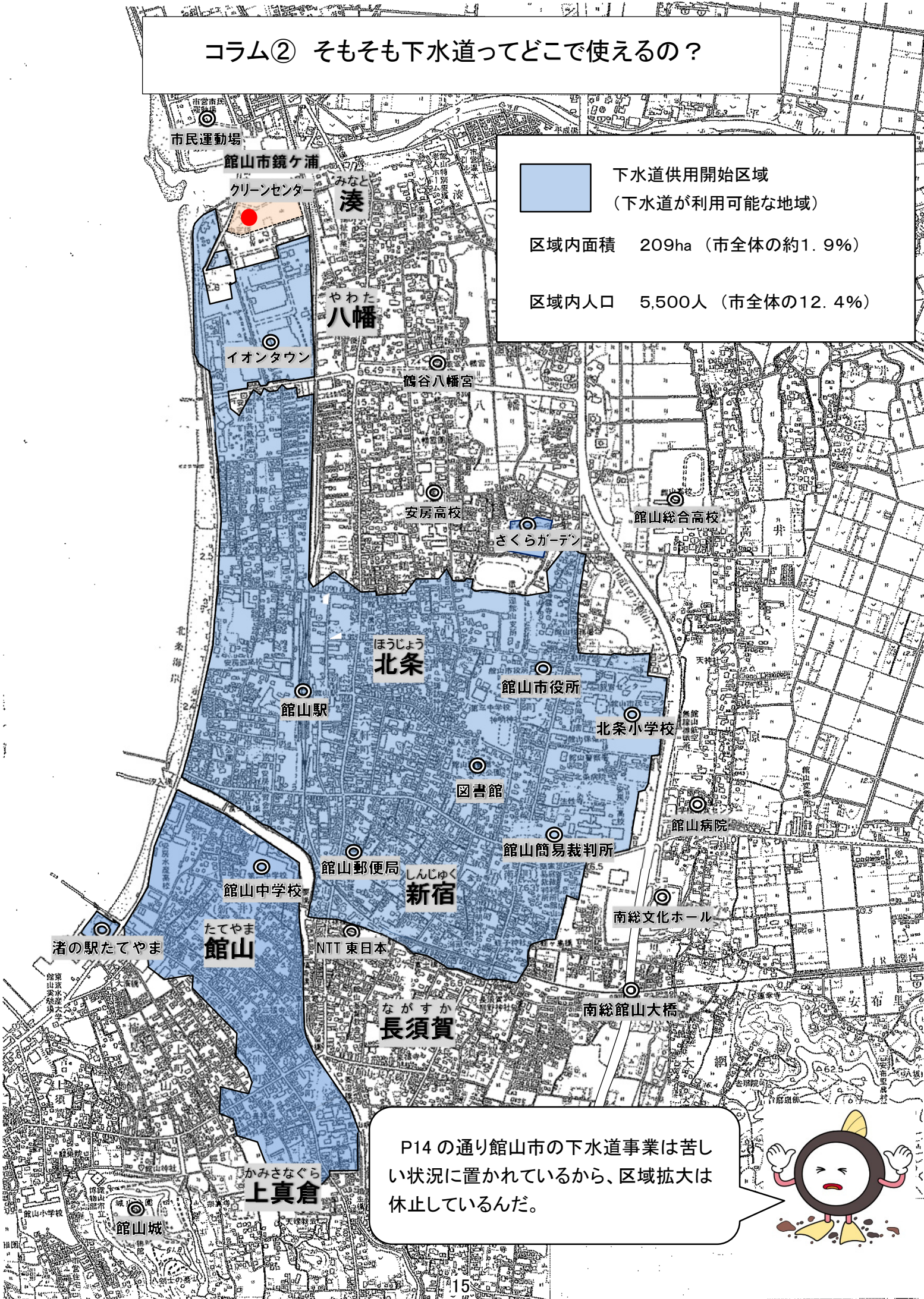
不足している134.67円分は一般会計からの繰入金(市民からの税金等)などから支えてもらっているんだよ。

ここで問題なのが下水道事業に補っている繰入金の内、市民からの税金は下水道区域内外に関わらず頂いているよね。つまり、下水道に接続できる環境になくて、恩恵を受けることの無い下水道区域外の方から頂いた税金も下水道区域内の方に投入していることになるんだ。

では、この問題をどうするのか。今後も解説していくので次回の「下水道の隠れた真実を探ってみるっぺ！」をぜひ見に来てね！



コラム② そもそも下水道ってどこで使えるの？



P14の通り館山市の下水道事業は苦しい状況に置かれているから、区域拡大は休止しているんだ。

